

あしたの風

第84号

平成29年2月発行
編集発行 秋田市教育委員会
生涯学習室

秋田市の生涯学習



川添、種平、戸米川、大正寺の4校が
統合して開校した秋田市立雄和小学校

☆☆雄和地区☆☆

雄和小学校を視察して

女性セミナー「ゆうわ」

会長 堀井好子

平成二十八年度事業の一環として、昨年四月に開校した「雄和小学校」を視察しました。会員の「統合した小学校で地域の子どもたちがどのような学校生活を送っているのか知っておくべきでは？」との意見によるものです。

会員の殆どが子育てを終わって学校の様子を知る機会がなかったので一同大賛成となりました。担当職員に早速校長先生と連絡をとっていただき、学校側からも快く了承を得ることができました。

秋の収穫が一段落した十月十八日、会員二十数名は、中学校と併設して新築開校した新雄和小学校を訪ねることができました。

教職員に迎えられた玄関は広々として、その空間に飾られたモニUMENTも木材がふんだんに使われている校舎にマッチして、素晴らしい雰囲気を感じました。

小学校と中学校兼務の校長先生から学校の概要について説明を受けた後、二班に分かれて先生方のご案内で校舎を見学しました。人工芝の中庭では児童たちが、室内履きで一輪車に乗ったり、走り回ったり伸び伸びと動き回る姿に感動しました。

驚いたことに小学校と中学校が一緒の職員室で、さらに小学生に中学校の先生が授業を行うなど、連携して工夫を凝らしたご指導に頭の下がる思いでした。

また、小中併設のため、同じ地域の中学生が近くにおいて、小学生も安心して学校生活を送っているのでしょう。

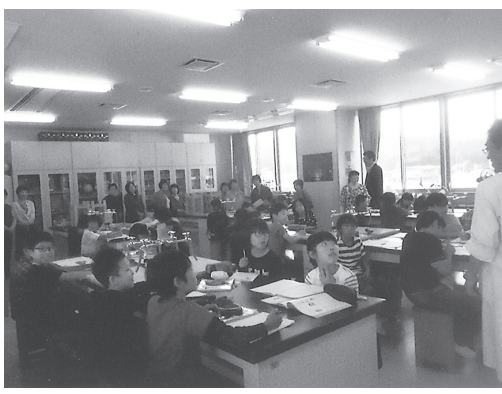
雄和の象徴である高尾山と雄物川、また白根館の四季折々の美しい自然、そしてこのような立派な教育環境の中で健やかに育って欲しいと願っています。昨今、頻繁に起きている痛ましい事件や事故の無いように！

何と言っても「子どもは地域の大切な宝」だから。

明るく広々した廊下に感激！



中学校の先生による小学生への授業



☆☆東部地区☆☆

元気に「遊びの記録会」

東部地区生涯学習奨励員 大井光弘

今年度の「東部地区遊びの記録会」は、去る七月二十三日（土）に「いーぱる」で開催されました。前年度は「東部市民サービスセンター」の新築工事やむなく中止となりましたので、期待していたものの、参加者が例年より若干少なく感じました。PR不足であったかもしれませぬ。

それでも子どもたちは、例年通りに元気一杯にそれぞれのゲームに挑戦し、会場がひっきり返るような賑やかさで走り回り、世話人たちも一緒に大いに楽しみました。

記録会は、一分間にどれだけカードを集められるか挑戦の「一分間ジャンケン」や「さいころ1出し」、「の」の字さがし、ボトルに割り箸を入れる「割り箸ダーツ」、豆を箸で皿に移す「豆つまみ皿移し」、離れた洗面器に松ぼっくりを入れる「洗面器松ぼっくり投げ」の六つのゲームで行いました。

子どもたちはゲームを楽しみながら次々と新記録を出し、その度に友達と新たなグループを作っては、再度挑戦し、お互いに激励しながら熱心に遊ぶその姿に感動し、そのガンバリに感激しました。世話人としてお手伝いができたことに感謝しております。



一分間ジャンケンより

広面小学校の高学年児童が他の行事と重なり欠席したのは残念でしたが、低学年児童の皆さんが汗をふきふき元気になんぼる姿を見て、見学していた大人も拍手で応援し、次々と生まれる好記録に笑顔が溢れ、会場が一体となった喜びの記録会となりました。その姿をみて来年も是非、この事業を継続して欲しいとの思いを強くした一日でした。



割り箸ダーツより

☆☆ 南部地区 ☆☆ 地域の子育てを応援しています

四ツ小屋地区民生児童委員協議会

主任児童委員 伊藤 こう子

『南部地域子育て支援ネットワーク連絡会』

南部地域では平成二十二年に当連絡会が発足しました。民生児童委員、幼稚園・保育園の先生、ファミリーサポート、子育て中の保護者など、子育てに関わっている方々が連携して地域全体で応援するため、子育て環境の現状や課題について話し合っています。また、おでかけ情報誌「みんな遊び」において、毎年五月に発行し、子育てサロンや幼稚園・保育園開放の開催日時をお知らせしています。研修会や施設見学も年数回行い、より良い子育て支援につなげたいと考えています。

『しゃぼんだま広場』

各地区には、民生児童委員協議会（以下民児協）が企画する子育てサロンが多数あります。四ツ小屋地区は「ともだちの輪を広げよう」を合言葉に、月一回四ツ小屋児童センターで「しゃぼんだま広場」を開催しています。未来センターの出前保育、子ども健康課のクッキングや健康相談、3B体操、七夕やクリスマスといった季節の行事に因んだ工作、にじいろ読書会によるお話しなどの他に、秋田市社会福祉協議会や認定こども園からも協力をいただきながら活動しています。また、平成二十三年に主任児童委員が中心となって、南部八地区の民児協合同によるミニ運動会を南部公民館で開催し、以後毎年一回遊学舎で行っています。

平成二十六年五月、待ちに待った南部市民サービセンターなんびあがオープンし、子育て交流ひろばで親子がいつでも遊ぶことができるようになりました。これまで私たちが担ってきた「遊び場」は一つの区切りを迎えたようにも感じていますが、親子が楽しみに来てくださるうちには、より参加しやすい広場になるよう今後も取り組んでいきたいと思っています。

南部八地区民児協合同「ミニ運動会」より



しゃぼんだま広場「おはなし会」より



☆☆河辺地区☆☆

生涯学習奨励員として思うこと

劇団「河辺わさび座」

代表 石塚 小枝子

私たち生涯学習奨励員は、市民に市町村や団体などが主催する行事への参加を促し、楽しい学習事例を紹介し、学習意欲を高め、市民とのパイプ役として、地域活動の充実発展に貢献することが重要な役割であると考えています。自ら学び、人々に様々な学習を勧めたり、行事への参加を促しながら、前向きな行動の重要性を数年前から強く感じています。同時に、地域に受け継がれてきた人間関係や、先輩方が培ってきた伝統や文化がいつの間にか消えつつある事への寂しさも感じています。

人は人、自分は自分という考え方は、どうする事もできないと思う事もありますが、自分にできることを、地域の賛同しあえる仲間と輪を広げ、消えつつある伝統をもう一度盛り上げ、継承する事が今一番大切な役目のように思い、日々過ごしています。

そして、私が最も心配なのは、子どもたちの生命に対する認識の希薄化です。これは、地域社会の在り方や環境の変化も要因でしょうが、幼児期からの心の教育や、親の躾がいかにか大切であることを示しているように思います。子どもたちには善悪や思いやり、社会のルールをしっかり身につけ、自分で始めたことは、最後までやりきる人間になって欲しいと思っています。

昔と違い、超少子高齢化の進む中、家庭や地域での輪も小さくなり、生涯学習奨励員としては、何か大切なものを見失っているように感じます。

家族の絆をテーマに、
舞台上で演じて伝える



子どもたちに、昔ながらの地域のよさを守り伝えるなど、伝統を大切にしたいと考えています。

地域の美しい自然と伝統を守り、皆が笑顔で幸せに暮らせるよう、これからも自分にできることをやっていきたいと思っています。

《連載》社会教育活動拠点施設等

旧黒澤家住宅

(秋田市一つ森公園内)

旧黒澤家住宅



旧黒澤家住宅は、約三百年前に現在の秋田市中通三丁目に建てられた上級武家屋敷住宅です。現在残っている江戸時代の武家住宅の多くは、幕末、明治期に建て替えられたり、その後の改築が激しかったり、附属建物が失われていたりする例が多く、旧黒澤家住宅のように完全な形で江戸時代の形を伝える武家住宅は全国的にも類例がありません。

江戸時代において、藩士の住宅は藩の所有物で、藩士の身分、石高に応じてあてがわれていたため、藩の都合や藩士の身分の変化により居住者の変更が行われました。旧黒澤家住宅も芳賀家、赤田家、吉成家、平井家、黒澤家の順に変わっています。黒澤家は文政十二年（一八二九年）から居住した石高五百石、山奉行、寺社奉行の要職を務めた上級武士でした。

旧黒澤家住宅は、昭和六十年に黒澤家から秋田市へ寄付され、その後、昭和六十三年に一つ森公園内に移築されました。この貴重な建物は、平成元年五月十九日、国の重要文化財に指定されています。



旧黒澤家住宅

(秋田市観光文化スポーツ部佐竹史料館所管)

秋田市榎山字石塚谷地二九七番地九九

電話 〇一八―八三二―〇二八五

観覧時間 午前九時三十分～午後四時三十分

年末年始は休館

旧黒澤家住宅など八文化施設の
観覧には共通観覧券が便利です！

共通観覧券

「みるかネット・ぐるりん周遊パス」

価格 五〇〇円

発行日から一年間有効



千秋美術館（企画展を除く）

赤れんが郷土館

民俗芸能伝承館

旧金子家住宅

佐竹史料館

久保田城御隅櫓

旧黒澤家住宅

秋田城跡歴史資料館

以上の施設を一回ずつ観覧できます。

各施設の窓口でお願い求

めください。

（この文章は、秋田市のホームページを元に生涯学習室が構成しました。）



秋田県公民館連合会表彰

平成二十八年十月二十六日、第六六回秋田県公民館大会において、左記の方々が表彰されました。

- 加澤 哲 様 (北部地区)
- 高橋 敏子 様 (北部地区)
- 来 栖 瑞 恵 様 (北部地区)
- 鈴木 友子 様 (南部地区)
- 後 藤 利 恵 子 様 (南部地区)

おめでとうございます。
今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。



生涯学習奨励員って・・・

地域における生涯学習を盛んにするためには、住民の身近なところで学習活動を奨励、援助する人が必要です。

生涯学習奨励員は、市町村や各種団体が主催する行事への参加を促したり、楽しい学習事例を紹介したり、自らが公民館や市民サービスセンターなどで開催される地域への行事に進んで協力する等の役割があります。

「あしたの風」は広く配布されています。

「あしたの風」は年2回（9月と2月）各一、一〇〇部発行し、秋田県の社会教育施設（生涯学習センター、図書館など）や秋田市の社会教育施設（公民館、図書館など）、社会教育関係委員（社会教育委員、生涯学習奨励員など）に配布しています。このほか、市民サービスセンター、地域センター、コミュニティセンターにも配布しています。

ご希望の方は秋田市教育委員会生涯学習室（八八八―五八一〇）までご連絡ください。

編集後記

「あしたの風」発行までの行程には、携わらなければわからない様々な作業があります。地区割り、原稿依頼、何度かの校正をしてからやっと印刷になります。

各地区の「あしたの風」担当の生涯学習奨励員と、生涯学習室の担当職員の見直しを、ちょっと紹介させていただきます。今年もどうぞよろしくお願い致します。



編集委員 (秋田市生涯学習奨励員)

- 田村 美穂子 (土崎) 富 樫 智恵子 (中央)
- 永井 文代 (東部) 相 原 和 子 (西部)
- 乙 供 美 香 (南部) 来 栖 瑞 恵 (北部)
- 石 塚 小 枝 子 (河辺) 大 友 昌 子 (雄和)

『あしたの風』第84号

発行 平成29年2月
編集発行 秋田市教育委員会生涯学習室
秋田市山王一丁目一番一号

電話 〇一八―八八八―五八一〇

この広報誌は

単価 一部57円 (消費税抜き)

発行部数 一、一〇〇部

配布方法 無料配布